六年間の奮闘（ふんとう）　～ピアノコンクールで学んだこと～

東部小・６　常岡　るい

私は五才からピアノを習っています。幼稚園を卒業したころ、ピアノ教室の先生から
「コンクール出てみない。」
と言われました。その日から今日までの体験や成長について話したいと思います。

初出場は一年生のときでした。私の出場したコンクールは「一・二年」「三・四年」「五・六年」の部門にわかれています。六月に予選があり二月ごろに配られる課題曲の中から一曲選んで練習します。好奇心だけで出場を決めた私はコンクールの雰囲気（ふん）などを考えずに練習していました。そして予選当日、他の子が上手すぎる驚きでまともな演奏ができず落選となりました。なんでみんな上手なのと思い、泣いていた当時の私がなつかしいです。

二度目の出場となる二年生。負けず嫌いな私は、入賞したい思いから練習時間を倍にしました。その努力が認められたのか予選を無事に通過することができました。一か月後の本選でも安定した演奏ができ、見事入賞しました。初めてのトロフィーを手にして、私だってできるんだと大喜びしました。

三年生のときはコロナかにより開さいされず、次の出場は四年生になりました。コロナかの間、ずっと家にいた私は人前が苦手になっていました。予選本番、私は緊張で指が固まってしまい、失敗の連続でした。二年生のときに上手くいった分くやしかったです。でも、お父さんの
「納得のいかない演奏で入賞しても意味がないよ。」
という言葉で立ち直りました。

四度目の出場となる五年生。高学年部門の課題曲は去年と比べ物にならないほど難しい曲でした。去年の失敗が心に残っている私は上手く弾けるか心配でした。そこで私は、ピアノの練習以外にも学校でたくさん発言するなどして人に見られることに慣れる努力をしました。そのおかげか、予選当日は落ち着いて弾くことができ、無地通過することができました。努力が実ってうれしかったです。ですが本選では相手が六年生だからなのか、三年ぶりの本選だからなのか緊張してしまいました。その緊張が演奏の固さに表れてしまい、入賞とはなりませんでした。曲のレベルに対して練習が足りていなかったと後悔しました。

五度目の出場となる六年生。今回を最後と決め本気で取り組みました。私が選んだ曲は強い音での高速演奏が多く、当時の私の体力や指の力では簡単には弾けませんでした。そこで私は指やうでの力をつけるトレーニングを始めました。すると少しずつ指が動くようになり、本番前には思い通りの音が出せるようになっていました。予選当日も練習通りの演奏ができ、無事に通過することができました。

本選は予選の一か月後にあり、予選とは違う曲を弾きます。本選の日は偶然、私の誕生日の前日だったので入賞しないわけにはいか

ないという思いで練習しました。
　ところでクラシックを弾く上で難しいことは何だと思いますか。私は作曲者が表現したかった音を読み取ることだと思います。指の角度や動きの違いだけでも出る音は変わってくるので、ピアノ教室の先生と試行錯誤（さく）をくり返しました。本選までの一か月間、ピアノの練習に時間を使いすぎて他のことができなくなることもありました。しかし、練習不足が原因で入賞できないことだけは絶対に嫌だったので、ピアノの練習を精一杯やりました。
　本番一週間前になると入賞できるかわからない不安から自分の演奏が下手に聞こえるようになってきて、何度弾いても納得のいかないことがストレスになっていました。本番前日になっても自分の演奏に納得できずにいると、母に
「つかれてる？無理しなくてもいいよ。久しぶりにゲームやる？」
と言われ、家族みんなでゲームすることになりました。私のすがたを見て心配してくれたことがうれしくて少し気分が楽になりました。最後の練習で上手く弾けたときは母のおかげだと思いました。
　ついに訪れた本選当日。演奏までの待ち時間は精神的に辛かったですが、私なら大丈夫、最後は楽しもうと言い聞かせて自分の番をむかえました。
　手のふるえをかくしながら演奏を始めました。一度間違えても演演を止めずにできたことに自分の成長を感じました。楽しむことだけを考えて最後まで弾き切りました。礼をしたときは、無事の終わった安心感からさらに体がふるえていました。先生や親は上手だったと言ってくれましたが、反省点が次々に出てきて不安でした。
　運命の結果発表。出場者十七人中入賞となるのは上位十一人です。体がこわれそうなくらいドキドキしました。十一位から六位まで名前が呼ばれていき、もう無理だと思ったそのとき、
「五位、常岡るいさん」
いっしゅん時が止まった気がして、気が付くと私は泣いていました。上位に入ったことに頭が混乱してしまいました。トロフィーを受け取ったとき、プレッシャーに負けずにがんばったことが認められた気がしてうれしかったです。それと同時に入賞できたのは、先生や親のおかげでもあると思ったので、帰りにたくさん感謝を伝えました。
　六年間コンクールに出場してピアノの技術以外に学んだことがあります。努力は必ず結果に表れるということです。コンクール入賞を目指して努力し、報われたという経験が私の自信の源になっています。この先、あきらめたくなることもたくさんあると思いますが、努力は必ず結果に表れること、六年間で積み上げてきた自信を忘れないで少しでも前に進みたいです。